

八剣山ワイナリー設立支援グループ各位

八剣山ワイナリー計画にご支援をいただいている皆様にニュースレター第4号を配信します。ブドウ畑はまだ雪の中ですが、日差しはすっかり春めいてきました。新規作付けが待ち遠しい今日この頃です。

ニュースレターでは定期的にワイナリー開設にむけての準備状況やブドウ畑の様子などをお知らせします。風光明媚な八剣山の麓にワイナリーを！一緒に夢をかなえましょう。（このニュースレターの配信が不要な方は、その旨本メールにご返信下さい）

八剣山ワイナリー開設計画ニュースレター 110221号

●セイベルって何者？

北海道では、赤ワイン用のブドウとして「セイベル 13053」が多く生産されています。八剣山ワイナリー試験圃場でもすでに3年の栽培実績がありますし、今後の醸造原料として使用したいと考えています。しかし、どうしてこの品種が北海道に多いのでしょうか？答えのひとつは、北海道立中央農業試験場が昭和50～55年にこの品種の試験栽培をして、「酒質については、色調・清澄度とも良く、――中略――飲み易いワインであった」「耐寒性は高い方で、――中略――赤ワイン用醸造専用品種としての要望にそう」と高評価をしたからです。ところで、このブドウは、いったいどんな素性の品種なのでしょうか。ちょっと調べてみました。

セイベル種は、フランス人アルバート・セイベル氏が生み出したハイブリッド品種群で、このなかの「セイベル 13053（別名：カスケード Cascade）」は「セイベル 7042」×「セイベル 5409」の交配によるものです。といっても良く判りませんね。ポーランド（なんと）のホームページに原産種の交配比率が掲載されていました。

- V. vinifera（欧州原産）――52.35%
- V. labrusca（北米原産）――10.9%
- V. rupestris（北米原産）――22.3%
- V. berlandieri（北米原産）――3.12%
- V. riparia（北米原産）――6.25%
- V. lincencumii（北米原産）――5.08%

この品種は、フランスでも1950年代から多く栽培されましたが、ワイン法で原産地呼称統制の対象外として栽培を禁止したため、急速に栽培が縮小したとのこと。しかし世界的にはテーブルワインやブレンド用原料として現在でも生産しているところも多いとのこと。ちなみに十勝ワインの「清美」は、この品種のクローンです。

ちょっと退屈な話？になりましたが、今月号はここまでとさせていただきます。



セイベル13053の葉と果実

以上（平成23年2月21日発行）

〒065-0024 札幌市東区北24東17-1-12

（株）レアックス内

八剣山ワイナリー設立発起人会

事務局：亀和田俊一 kamewada@raax.co.jp

<八剣山ワイナリーホームページもご覧下さい。>

<http://www.hakkenzanwinery.com/>

<「ブドウ畑から始まる職人ワイン造り」：翻訳者—事務局・亀和田）の情報はこちら>
<http://www.hakkenzanwinery.com/oct/>